

若さと経験、二つのパワーが育む 子どもたちの笑顔

ななしのごんべの会

障がいがある子どもたちのための特別支援学校、都立町田の丘学園では、授業以外の時間にもイベントやレクリエーションで子どもたちが楽しく過ごす様子が見受けられる。これは主に、市内のボランティア団体の協力によるものである。「ごんべわかばの会」とも活動する、国士館大学ボランティアクラブの「ななしのごんべの会」もその一つ。メンバーの高齢化にともない月1回の定期活動が難しくなったというごんべわかばの会に、もともとは独自で活動していたななしのごんべの会がジョイントし、活動の継続を支えて



平井さんを囲むななしのごんべの会のメンバー。右隣が生越さん。

いるのである。これによって子どもたちの笑顔は、より増すことになった。

身体に障がいがある子どもたちの世話には体力も必要であり、また子どもたちとうまくコミュニケーションをとるためには、年齢が近い方がよりスムーズである。ななしのごんべの会の若さは、強力な手助けとなった。特に子どもたちに大人気のカラオケイベントなどは、世代的ギャップがありすぎて一緒に楽しむことが難しかったのだという。もちろんななしのごんべの会にとってもこれは、意義あることだった。大学3年生の生越彩おこしあやさんによれば

「私たちは社会貢献がしたいと思いいこの活動に参加しています。でも、いざやってみると実際は大変な活動だということがよく分かりました。経験豊富なわかばの会のみなさんたちから介護やボランティアの知識を学ぶことで、よりレベルアップしていけると思っています」。こうして世代の違う二つの団体のジョイントが互いの活動の質を高めることに繋がり、それが子どもたちに還元されているので



月2回の活動の他、毎年この時期はプレゼントを用意し、クリスマス会も行われる。

ある。

2団体の共同活動は月に1回。カラオケや各種ゲーム大会などで子どもたちと一緒に盛り上がりつつある姿は、年が近い人が増えただけに、ボランティアする側と受ける側というイメージは薄く、ごく自然に写る。取材に訪れた日、ななしのごんべの会のメンバーは11人が参加し、ごんべわかばの会は代表の平井秀夫さん一人。この日のメニューには「風船バレー」があった。風船とはいえ体力的にはそう楽ではない。しかし体力みなぎる学生と子どもたちは、延々と笑顔で風船を追い続ける。それを見守る平井さんの顔には、安堵の笑みが浮かんでいた。



町田養護学校が町田の丘学園に変わったことで「町養わかば会」も名前を変えることになったが、代わりが思い浮かばず「ななしのごんべ」状態だったため「ごんべわかばの会」となった。「ななしのごんべの会」もそこから名づけられた。

問い合わせ

ななしのごんべの会 (生越)
FAX:044-820-6033